

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01523

研究課題名（和文）モンスーンアジアの小農経済：産業革命期日本の環境史的地域研究

研究課題名（英文）Peasant Economy in Monsoon Asia: A Regional Environmental History of Japanese Industrialization

研究代表者

村山 聡（Murayama, Satoshi）

香川大学・教育学部・名誉教授

研究者番号：60210069

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,600,000円

研究成果の概要（和文）：明治15年頃の地誌叙述の数量化に基づく地図化によって、例えば、2004年10月20日の台風災害時の雨量変化などに主題を設定し、地域環境を可視化することができた。また、加佐郡の旧版地形図をもとに、土地利用GISデータの地図化を進め、舞鶴地方史研究会で二度のワークショップを開催し、地元の方々のご意見を聞く機会を設け、さらに、東アジア環境史協会大会(EAEH 2023)での研究発表を行い論文作成を進めた。史資料のデジタル化として、2023年4月にWEB「まるまる舞鶴」で「田辺藩土目録」「京都府地誌 加佐郡村誌」などのデータ・コラムを公開した。今後の分析あるいは論文作成等に大いに役立つ成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

村を単位とする日本特有の情報集積である明治初期・中期の郡村誌に関して、特に、京都の加佐郡に関する歴史資料を丹念に分析し、各種の可視化を行い、広く興味のある方々へ公開することができた。それは、現地の方々にとって、今後の災害対策等に活かせるだけでなく、さらにその議論が歴史研究者に留まらず気象学・気候学あるいは水文工学の理系研究者との協働で進められた意義は大きく、東アジア環境史協会大会での発表を通じて、東アジアを超えてアジア環境史協会設立に向けても学術的な貢献をすることができた。また同時により詳細な歴史研究を可能にし、歴史研究における再現可能性を高める歴史資料のデジタル公開を行なった。

研究成果の概要（英文）：Mapping based on the quantification of topographical descriptions from around 1882 made it possible to visualise the local environment. For example, a topic was set as the rainfall change during the typhoon disaster on 20 October 2004. In addition, based on the old topographical maps of Kasa-gun, we have mapped the land-use GIS data, held two workshops at the Maizuru Local History Study Group and provided opportunities to listen to the opinions of local people, and presented our findings at the East Asian Environmental History Conference (EAEH 2023), where we also prepared a series of papers. As part of the digitisation of historical materials, data and columns were made public on the web 'Marumaru Maizuru' in April 2023. The results are very useful for future analyses and thesis writing.

研究分野：経済史・環境史

キーワード：小農経済 有機経済 環境史的な地域研究 化石燃料消費社会 再生可能エネルギー社会

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、再生可能エネルギー社会への転換が急がれる現在、江戸時代から現代までの長期にわたって長く生き延びることのできた小農経済に着目し、改めて日本の産業革命期に関して環境史的地域研究を推進することにある。すでに近年の経済史研究によって、小農経済を基層に徳川時代に萌芽を見た経済発展のあり方は「在来的経済発展」として位置づけられている。

本研究は、その在来的経済発展の自然環境的基盤つまり小農経済の生態学的地質学的成立基盤と地域ネットワークの変容を、明治初期から中期に作成された皇国地誌等の郡村誌の比較研究に基づき、旧郡レベルの地域単位で環境史的に明らかにすることを課題とする。

つまり、化石燃料消費社会への移行期において、太陽光に基づく植物の光合成によるエネルギー創出を起点とする有機経済が地域の発展にいかにか効果的であったのか、あるいはそのような有機経済は何を起因にいかなる過程で放棄されるのかを実証することにある。

## 2. 研究の目的

経済史研究は近代への移行期に関して長く深く探求してきた。ただし、その多くは進化論的な発展段階論の影響を少なからず受けている。その中でリグリーの有機経済に関する議論だけはその議論が人口現象と関わる複雑なメカニズムを想定しただけに、一歩抜け出している可能性がある。しかし、進化論的な議論に対して十分な情報と証拠とその論理を展開できていないわけではない。

本研究の独自性はその議論に 1960 年代以降急速に研究成果が蓄積されてきた環境史研究の成果を組み込み、この有機経済社会からの移行過程について段階論的な歴史進化のメカニズムを解明することではなく、小農経済の生き残り戦略に注目し、皇国地誌を中核に近世から大正までの長期の環境史的比較研究を遂行することが目的である。

## 3. 研究の方法

- ① 明治 15 年頃の地誌叙述の数量化に基づく地図化によって、地域環境を可視化する。また、舞鶴町との市場ネットワーク関係は地誌の叙述で知ることができるが、他にも先に紹介した久田美の作方年中行事には「町方こへ得意」などの記述があり、村で所有している舟を利用して糞尿である下肥を旧正月に田辺城下で集めていることがわかる。現在利用できる「作方年中行事」のある村が含まれる三地域を抽出しているが、同史料の悉皆調査に基づき、加佐郡全体の有機経済の実態を数量化・地図化を推し進める。
- ② 洪水・旱魃リスクは気象条件並びに水文学的な河川条件などとの関係が深く、モンスーンアジアに関する PMIP・CMIP 並びに極端現象を扱うことができるユニークな d4PDF のデータを解析することにより、この地誌叙述の自然科学的な検証を行う。すでに、バングラデシュの一地域に関する地域研究で採用した手法を援用して、近世近代日本の水文気象学的な地域研究を遂行し、桐実生産に特化した地域や養蚕に特化した地域などの地域特性に関して、自然科学的な知見に基づく環境史的な実証研究を遂行する。
- ③ 明治 15 年頃の地誌は近世期及び大正期に作成された地誌との比較検討をすることができる。郡単位全体を掌握する地域把握は、それぞれの為政者の意図によって大きく内容を異にする。しかし他方で、有機経済的な基盤を有する限り、共通項も存在したことが証明できそうである。この共通項とは何か。この点を明らかにすると同時に、村落単位の叙述が明治の町村合併によって大きく変化することを跡付けることによって、地域の情報の何が変化し何が変わらないかを明らかにしたい。

## 4. 研究成果

3 年間の研究計画として次の三つの課題を有していた。そこに 2022 年 7 月 19 日に雨量モデルのデータセットが公開され、1 km メッシュの可視化復元が可能となった。本研究には決定的なデータセットの登場であり、研究期間を一年延長して、新たな課題に取り組みことにした。そこで、それぞれの課題を記述した後に、[実績]として、これまでの研究成果を叙述することにする。

- ① 明治 15 年頃の地誌叙述の数量化に基づく地図化によって、地域環境を可視化する。[実績]洪水・旱魃に関しては、さらなる可視化の精緻化を進めつつ、例えば、2004 年 10 月 20 日の台風災害時の雨量変化などを参考にして、これまでの可視化作業の点検を行った。また、昨年度、加佐郡の旧版地形図をもとに、土地利用 GIS データの地図化を進めた結果を受けて、2023 年 7 月 29 日に舞鶴地方史研究会でワークショップ「記録と記憶とモデルによる自然災害の復元：舞鶴・福知山の環境史②」を開催し、地元の方々のご意見を聞く機会を設けた。なお、研究期間を延長する前に、この 7 月の会合の五ヶ月前に、中間報告として、「過去の自然災害データから学ぶ-舞鶴・福知山の環境史-」と題して、本研究参加者全員が報告を行なった。これが舞鶴・福知山の環境史①であった。
- ② 地誌から地図化することのできる地域環境の諸要素の中で、例えば、洪水・旱魃リスクは、

気象条件並びに水文学的な河川条件などとの関係が深く、地誌叙述の自然科学的な検証を行う。[実績] 現時点での検証結果に関しては、東アジア環境史協会大会(EAEH 2023)での研究発表を行った。また、現在データおよび過去の気象ならびに水文学的なデータに関しても整理を進め、新たな視点からの理系と文系の協働した論文作成を進めた。特に、①に記載した現地での二回にわたるワークショップは歴史データや気象データだけでは理解が及ばない現地で災害を実際に経験した方々の証言が、学術的な研究においても非常に重要であることを確認することができた。学術論文の作成あるいは国際学会等での報告にあたり、それぞれの学術分野の手法に則りながらも新たな視角等を得る貴重な機会となった。舞鶴地方史研究会のような組織や現地での活動は非常に貴重であることを改めて認識することができた。

- ③ 有機経済的な基盤とその差異に関する実証研究において、村落単位の叙述は明治の町村合併によって大きく変化する。一村落そして複数の村落の持続性をいかに評価するか。[実績] この点、令和3年度までに遂行した史資料のデジタル化に基づいて、2023年4月にWEB「まるまる舞鶴」で「田辺藩土目録」「京都府地誌 加佐郡村誌」などのデータ・コラムを公開した。今後の分析あるいは論文作成等に大いに役立つ成果であると考え。また、今後も新たな学術研究の成果を得るたびに、現地へとその研究を投げ返す活動を続けて行く予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 村山聡	4. 巻 435
2. 論文標題 地球システムと人間の種としての再生産：新たな研究プロジェクトをめざして	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 百十四経済研究所『調査月報』	6. 最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Terao Toru and co-authors	4. 巻 104
2. 論文標題 AsiaPEX: Challenges and Prospects in Asian Precipitation Research	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Bulletin of the American Meteorological Society	6. 最初と最後の頁 E884 ~ E908
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1175/BAMS-D-20-0220.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 服部亜由未	4. 巻 2022
2. 論文標題 馬場家13代当主の旅日記	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 馬場家研究報告	6. 最初と最後の頁 31-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 服部亜由未	4. 巻 2023
2. 論文標題 馬場家文書に見る内田村と白川村との境界論争（1）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 馬場家研究報告	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村山聡	4. 巻 11
2. 論文標題 18世紀中後期ドイツにおける有機経済：租税国家ヘッセン・カッセルの「地誌」に関する環境史的試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geo-Communication Working Paper (GCWP)	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山聡	4. 巻 13
2. 論文標題 五名のため池－讃岐探訪 2022年8月27日－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geo-Communication Newsletter (GCNL)	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村山聡	4. 巻 第25章
2. 論文標題 ヨーロッパにおける地域と人口と家族 (ドイツ語圏)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本人口学会研究企画委員会 (2020-2021年度) 編 『日本人口学会報告書 歴史人口学の課題と展望』	6. 最初と最後の頁 245-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murayama Satoshi, Nakamura Hiroko	4. 巻 1
2. 論文標題 “ Industrious Revolution ” Revisited: A Variety of Diligence Derived from a Long-Term Local History of Kuta in Kyū-Otagi, a Former County in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Histories	6. 最初と最後の頁 108 ~ 121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/histories1030014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huda Nazmul, Terao Toru, Nonomura Atsuko, Suenaga Yoshihiro	4. 巻 13
2. 論文標題 Time-Series Remote Sensing Study to Detect Surface Water Seasonality and Local Water Management at Upper Reaches of Southwestern Bengal Delta from 1972 to 2020	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 9798 ~ 9798
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su13179798	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Murayama	4. 巻 14
2. 論文標題 Environmental humanities: a long-term local history approach to living spaces	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Kagawa University International Office	6. 最初と最後の頁 260-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masataka Yatsuzuka, Masahide Ishizuka, Satoshi Murayama, and Toru Terao	4. 巻 14
2. 論文標題 Study on dug well distribution and water balance in Teshima Island: environmental humanities and hydrological perspectives	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Kagawa University International Office	6. 最初と最後の頁 341-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huda, N., T. Terao, A. Nonomura, and Y. Suenaga	4. 巻 14
2. 論文標題 Remote sensing spatial analysis of waterlogging due to cyclones and storms in Bangladesh	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Kagawa University International Office	6. 最初と最後の頁 269-277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計45件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 26件）

1. 発表者名 村山聡
2. 発表標題 口のいろいろ：環境史からアプローチする日本文化
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「口と鼻－人体と外界の接合域の日本文化史－」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Satoshi Murayama
2. 発表標題 Considering village autonomy: Are ponds and reservoirs in Sanuki commons?
3. 学会等名 The First General Meeting of Japan-Slovenia Research Cooperative Program between JSPS and MESS (April 2023 - March 2025) "Peasant Economy in Sustainable Development: Historical Myth or Reality?" (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 村山聡・村山知洋・石塚正秀・寺尾徹
2. 発表標題 讃岐の早魃リスクと溜池決壊の歴史：経済史における人新世
3. 学会等名 社会経済史学会中国四国部会2023年度香川大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村山聡・村山知洋・石塚正秀・寺尾徹
2. 発表標題 ため池貯水時期の降雨量変化から推定するため池築造の論理
3. 学会等名 日本気象学会関西支部2023年度第1回例会（四国地区）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Toru Terao, Masahide Ishizuka, and Satoshi Murayama
2. 発表標題 Utilization of Multiple Dataset of the Rainfall Distribution and Variability: Observation, Satellites and Climate Models
3. 学会等名 The EJEA International Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村山 聡
2. 発表標題 郡村誌からの「復元」：特に土壌と旱魃から考える
3. 学会等名 舞鶴地方史研究会7月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 服部 亜由未
2. 発表標題 近世・近代の歴史研究における面的アプローチ：明治期の土地利用図
3. 学会等名 舞鶴地方史研究会7月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石塚 正秀・中矢 恵美子・寺尾 徹・村山 聡・東 昇・服部 亜由未・八塚 正剛
2. 発表標題 過去降水量データにもとづく由良川流域の洪水シミュレーション
3. 学会等名 舞鶴地方史研究会7月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寺尾徹
2. 発表標題 気候モデル実験における梅雨から夏季の干ばつ頻発現象の研究
3. 学会等名 舞鶴地方史研究会7月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村山聡
2. 発表標題 においの環境史：地球システム科学と文化史のあいだ
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「口と鼻ー人体と外界の接合域の日本文化史ー」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satoshi Murayama
2. 発表標題 Asian Diversity, Asian Boundaries: Living Spaces within Asian Monsoon
3. 学会等名 EAEH 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masahide Ishizuka, Toru Terao, and Satoshi Murayam
2. 発表標題 Characteristics of precipitation distribution and river flood using historical precipitation datasets: a study for the northern Kyoto region, Japan
3. 学会等名 EAEH 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satoshi Murayama
2. 発表標題 Pre-modern flood and drought in Kasa County, Kyoto, Japan: shaking steady state in the Asian monsoon
3. 学会等名 EAEH 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ishizuka, M., Terao T.
2. 発表標題 An approach based on data science: reproducibility of precipitation distribution causing historical river disasters using big data from climate models for the northern Kyoto region in Japan
3. 学会等名 EAEH 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村山聡・服部垂由未・東昇
2. 発表標題 近世・近代の歴史研究における面的アプローチ：加佐郡・町村誌を中心に
3. 学会等名 舞鶴地方史研究会2月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寺尾徹・石塚正秀
2. 発表標題 歴史データに基づく豪雨・台風の復元：1953年，1959年，2004年の豪雨・台風を中心に
3. 学会等名 舞鶴地方史研究会2月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村山聡
2. 発表標題 寛永21年(1644)坂本郷の吉利支丹御改帳：讃岐のため池と小農経済再考
3. 学会等名 社会経済史学会中国四国部会2022年度鳥取大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村山聡
2. 発表標題 ルタートゥムとドイツ精神の再考：ウェーバーの「倫理」論文への新たなアプローチをめざして
3. 学会等名 HAELE-5（環境経済史研究会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村山聡
2. 発表標題 丸亀藩地誌『西讃府志』（1839-1858年）が語る人流：日本の感染症を考えるために
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「口と鼻ー人体と外界の接合域の日本文化史ー」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Murayama, Nazmul Huda, and Toru Terao
2. 発表標題 Surface water changes and the transformation of socio-economic risks in Bangladesh: Bogura and Khulna in 1995-2021
3. 学会等名 AOGS 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村山聡
2. 発表標題 口数(こうすう)の環境史試論: 紛争・疫病・飢餓
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「口と鼻ー人体と外界の接合域の日本文化史ー」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Murayama and Toru Terao
2. 発表標題 Meteorological changes observed from the ground surface: an analysis of the village headman's diary of Takahama, Amakusa, facing the East China Sea, 1783-1818
3. 学会等名 Japan Geoscience Union Meeting 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Murayama
2. 発表標題 Are more resource wars on the way? The new wall Putin's Russia is building and the Ukraine crisis.
3. 学会等名 Environmental History Week 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi Murayama and Toru Terao
2. 発表標題 Early modern decision making in East Asia: Japan's organic economy in Takahama in the Amakusa Islands, Kyushu, 1793-1818
3. 学会等名 Virtual American Society for Environmental History 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八塚正剛・石塚正秀・寺尾徹・村山聡
2. 発表標題 瀬戸内海豊島における井戸の水位変動特性 2022年7月から12月の観測結果
3. 学会等名 令和5年度土木学会四国支部第29回技術研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Terao, T.; S. Kanae; J. Matsumoto; H. Fujinami
2. 発表標題 Collaborative Observational and Modeling Initiative Toward Understanding of Asian Hydroclimatological System
3. 学会等名 20th Asia Oceania Geosciences Society (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 U. Mondal; S. K. Panda; S. Das; T. Terao; F. Murata
2. 発表標題 Lightning Climatology and Extreme Lightning Event Analysis in Northeast India Using TRMM LIS and WRF Model: Implications for Hazard Mitigation
3. 学会等名 20th Asia Oceania Geosciences Society (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 F. Murata; T. Terao; H. J. Syiemlieh; L. Cajee; S. K. Kundu; S. A. Choudhury; S. H. Bhuiyan; F. Akter; R. Gogoi
2. 発表標題 Characteristics of Precipitation and Atmospheric Environment During the Heavy Rain Event Observed on June 14-16, 2022 in the Southern Meghalaya Plateau
3. 学会等名 20th Asia Oceania Geosciences Society (国際学会)
4. 発表年 2023年

1 . 発表者名 A. T. M. S. Hossain; T. Terao
2 . 発表標題 The Recent Change of Monsoonal Climate And It's Impact on Environment, Society & Sustainability of Ukhiya
3 . 学会等名 EAEH 2023 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Satoshi Murayama, Masahide Ishizuka, and Toru Terao
2 . 発表標題 Yura River in Japan under the influences of the Asian monsoon: digitalization of historic-topographic narratives and water flow simulations
3 . 学会等名 Association for East Asian Environmental History ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Murata, F., Terao, T., Yamane, Y., Kiguchi, M., Fukushima, A., Tanoue, M., Kamimera, H., Syiemlieh, H.J., Cajee, L., Ahmed, S., Choudhury, S.A., Bhattacharya, P., Mahanta, R., and Hayashi, T.
2 . 発表標題 Validation of satellite-borne precipitation radars by rain gauges and disdrometers over the northeastern Indian subcontinent.
3 . 学会等名 European Geophysical Union General Assembly ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Terao, T., F. Murata, Y. Yamane, M. Kiguchi, A. Fukushima, M. Tanoue, H. Kamimera, and T. Hayashi
2 . 発表標題 Application of GSMaP for the analysis of upper tropospheric radiative cooling over the Asian summer monsoon region.
3 . 学会等名 European Geophysical Union General Assembly ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 寺尾 徹
2. 発表標題 アジアモンスーンオンセット前後における大気加熱過程の評価
3. 学会等名 日本気象学会2021年春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Terao, T.
2. 発表標題 Impact of the Tibetan Plateau on the Atmospheric Heating Process over the Asian Monsoon Region
3. 学会等名 Asia-Oceania Geosciences Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Terao, T.
2. 発表標題 The Asian monsoon discussed by environmental histories of Living Spaces: Meteorological approaches
3. 学会等名 Association for East Asian Environmental History (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 寺尾 徹・鼎信次郎・松本 淳
2. 発表標題 GEWEX AsiaPEX (アジア降水研究計画)とアジアの水循環システム
3. 学会等名 水文・水資源学会 / 日本水文科学会
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Terao, T., S. Kanae, J. Matsumoto
2 . 発表標題 The Focus of the AsiaPEX Science Plan and Implementation of Asian Monsoon Year-II.
3 . 学会等名 Asia-Oceania Geosciences Society ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Terao, T., Kanae, S., and Matsumoto, J.
2 . 発表標題 GEWEX AsiaPEX: Toward understanding of variability of the Asian hydroclimatological system.
3 . 学会等名 International Symposium on Tropical Meteorology ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Terao, T., Kanae, S., and Matsumoto, J.
2 . 発表標題 Research strategies and approaches of the Asian Precipitation Experiment (AsiaPEX).
3 . 学会等名 First Climate Research Forum in the Southern Asia Region ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Terao, T., F. Murata, Y. Yamane, M. Kiguchi, A. Fukushima, M. Tanoue, H. Kamimera and T. Hayashi
2 . 発表標題 Production and Accumulation of High Moist Static Energy Airmass through the Land-Atmosphere Coupling over the Bengal Plain.
3 . 学会等名 International Conference on Meteorology and Climate Science 2021 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi Murayama
2. 発表標題 Complex processes of decision-making in organic economies around 1750: “Historical Topography” of a fiscal state in Hessen-Kassel, Germany.
3. 学会等名 Association for East Asian Environmental History (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi Murayama and Toru Terao
2. 発表標題 Flood, Drought, and Lack of Sunshine in the East Asian Monsoon Region: Quantified Analysis of Weather Statements in Administrative Diaries of a Village, Takahama in the Amakusa Islands, Kyushu, Japan, 1793-1818.
3. 学会等名 Asia-Oceania Geosciences Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Terao, T., Kanae, S., and Matsumoto, J.
2. 発表標題 GEWEX AsiaPEX: Collaboration toward understanding of multiscale variability of Asian hydroclimatological system.
3. 学会等名 Seventh WMO International Workshop on Monsoons (IWM-7)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村山聡、Josef Grulich
2. 発表標題 18世紀後半の東欧・南ボヘミアにおける冷夏と不作の環境史：再版農奴制の人口学的再検討
3. 学会等名 日本人口学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoshi Murayama, Hiroko Nakamura
2. 発表標題 Seeking new environmental decision-making in Asia: Ten years of the Association for East Asian Environmental History and its future
3. 学会等名 American Historical Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 服部 亜由未	4. 発行年 2023年
2. 出版社 愛知県豊田市	5. 総ページ数 18
3. 書名 地図でみる近代の豊田	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	東 昇 (Higashi Noboru)  (00416562)	京都府立大学・文学部・准教授  (24302)	
研究分担者	服部 亜由未 (Hattori Ayumi)  (70708370)	愛知県立大学・日本文化学部・准教授  (23901)	
研究分担者	寺尾 徹 (Terao Toru)  (30303910)	香川大学・教育学部・教授  (16201)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	石塚 正秀  (Ishizuka Masahide)  (50324992)	香川大学・創造工学部・教授    (16201)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 Geo-Communication Seminar 38 "Historians' talk on Ukraine from Slovenia and Japan, ASEH Environmental History Week 2022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 HAELE-10: Discussion, Seeking the future for Altered Earth in Asia	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Eurasian Living Spaces Project Week	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Historians' Talk on Ukraine from Slovenia and Japan	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Slovenia-Japan Week (JSPS/MESS)	開催年 2020年～2020年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
スロベニア	Institute of Contemporary History	University of Primorska	
チェコ	University of South Bohemia		
ドイツ	University of Freiburg		
中国	Shanghai Jiao Tong University		